

平成31年4月12日

お知らせ

京都市文化市民局
〔担当 元離宮二条城事務所〕
〔TEL 841-0096〕

《梅図》を展示するのは
初めて!

世界遺産登録25周年記念

「二条城障壁画 展示收藏館」原画公開 平成31年度第1期 梅と牡丹の障壁画 ～ 廊下を彩る花たち ～

元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示收藏館」において、年4期にわたり二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開しております。この度、第1期原画公開「梅と牡丹の障壁画 ～ 廊下を彩る花たち～」の開催について詳細が決まりましたので、お知らせします。今回は、修理が完了した〈黒書院（くろしょいん）〉東廊下（別名：牡丹の間）の障壁画を公開します。中でも《梅図（うめず）》は、当館では初公開となります。

会期中には、二条城の学芸員が障壁画等について解説するギャラリートークも予定しています。是非、この機会に二条城へお越しください。

1 会期

平成31年4月18日（木）～6月16日（日）〔60日間〕

2 入館時間

午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分）

※二条城の入城受付は、午後4時まで。

3 会場

元離宮二条城内 二条城障壁画 展示收藏館

（京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）

※二条城にお越しの際は、公共交通機関を御利用ください。

4 入館料

200円（未就学児無料）

※別途入城料が必要。

※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方については、入館料を徴収しません。

5 公開作品

(1) 〈黒書院〉牡丹の間障壁画《牡丹図（ぼたんず）》《梅図》（障壁画面数：20面）

(2) 解説及び見所 裏面のとおり

6 ギャラリートーク

(1) 日 時 令和元年5月11日（土）午後2時～（約30分間）

(2) 参加方法 当日、30分前から館内で受け付けます。（先着40名）

(3) 参加料 入城料及び入館料で参加していただけます。

(4) 内 容 二条城学芸員が公開障壁画等について詳しく解説します。

7 お問い合わせ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

〔〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地〕
〔TEL：(075) 841-0096 FAX：(075) 802-6181〕

梅と牡丹の障壁画 ～ 廊下を彩る花たち ～

慶長8年(1603)に徳川家康(1542-1616)が築城した二条城は、寛永3年(1626)、三代将軍、徳川家光(1604-51)の時代に、大幅に改修されました。二の丸御殿の部屋内の障壁画のほとんどは、この時に描かれたものです。今回、原画を公開する〈黒書院〉の東廊下(別名:牡丹の間)は、通路としてだけでなく、部屋内に準じるような機能を備えていたと考えられる、特殊な廊下です。

今回公開する《牡丹図》は、この廊下の北側と西側の障壁画です。《牡丹図》のうち、北側の壁貼付は、画面に奥行きを感じさせる桃山期の絵画様式、他方、西側の襖は、平面性を志向する寛永期の絵画様式で描かれています。一つの空間に、異なる時代様式で描かれた障壁画が存在する理由は不明ですが、家康が築城した二条城の建物から、改修後の二の丸御殿に、この北側の《牡丹図》が受け継がれた可能性も否定できません。異なる時代様式で表現された、牡丹の華やかさが見所です。

今回、当館で初公開となる《梅図》は、この廊下の東側に描かれたもので、白梅図と紅梅図に分かれます。もともと、白梅図が〈遠侍〉の物置、紅梅図が〈大広間〉の物置に描かれ、後世、ここに移されました。いずれも上述した桃山期と寛永期の絵画様式が併存する、様式転換期の特徴を備え、寒風のなかに花をつける梅の力強さ、たくましさを感じられる作品です。

興味深いことに、紅梅図の襖1面には、〈大広間〉の物置の東隣、同四の間に描かれた鷹と、よく似た鷹を描く墨線が金箔から透けて見えていますが、両者を見比べると、鷹の位置や大きさが少し異なります。これは、紙に描かれた鷹の下絵が、何等かの理由で不採用となり、その上から金箔を貼って紅梅図が描かれ、金箔が経年変化で薄くなったため現出したと考えられます。期せずして現れた墨線の鷹と、その上に描かれた紅梅図は、絵画作品であると同時に、障壁画制作の実態を伝える貴重な史料でもあるのです。



〈黒書院〉牡丹の間《牡丹図》部分



〈黒書院〉牡丹の間《梅図》部分